

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2795000070 | | |
| 法人名 | 株式会社 孝生会 | | |
| 事業所名 | グループホーム フォレスト 3F | | |
| 所在地 | 東大阪市若江東町4-2-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年1月6日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年4月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2795000070-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年2月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に付属しており、医師、看護師、P.Tの意見取り入れ、ADL、体調の維持向上を行っている。また、行事、外出の機会を増やすため、近くのコンビニ、スーパーへ1日以上の買物へ行ったり、月2回程、外食、外出の機会を設けている。デイケアで行事がある際は参加し交流を図っている。毎年、地元神社へ初詣に行き地域交流できるよう支援。日常では、毎日2~3回の食事作り、体操、創作活動等に参加して貰っている。【介護理念】私たちは「あたたかい心」、「明るい笑顔」でその人らしい活気とゆとりのある生活環境を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念として、「あたたかい心」「明るい笑顔」を掲げ、それを基に各フロアの理念も設け定期的に評価し、常に利用者の状態に合わせたサービスが提供できるよう取り組んでいます。開設4年が経ち今後さらに地域交流に力を入れて行きたいとの思いから、フロア理念に盛り込み、幼稚園との交流会を始めなど一つひとつが実践に結び付くよう努めています。利用者の様子は医療機関と連携を密に取りながら、介護計画に添って日々の状況を細かく観察し、会議で意見交換を行い、どの場面でもその方にとって最良のケアを行えるよう情報を共有して支援しています。また、身体拘束や接遇、終末期ケアなどの勉強会を開いて職員の理解を深めたり、外出については、利用者や家族の希望も取り入れながら無理なく楽しめる個別ケアも組み入れ、サービスの向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「法人理念」「介護理念」「フロア理念」を作成し理念に沿ったケア、自立支援に努めているが、利用者様・職員の入れ替わりがあったので、「フロア理念」を今年度は行っている。 | 事業所の理念に加え、各フロアの理念も定め、目に付く場所に掲示して職員に意識付けを行っています。年1回振り返りの機会を設け、見直しに向けた話し合いを行い、実践状況と今後の目標を個々に考えています。今年度は地域を意識した文言を追加し、サービスの向上を図っています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議へ民生委員の方に参加して貰い情報を得ている。又、老人会の食事会にも参加している。 | 近隣のスーパーやコンビニ、商店へ買い物によく出掛け、顔なじみになり会話を交わしています。地域の幼稚園との交流会を開催したり、町内の祭りでは神輿の見学に出掛けています。老人会の集会に管理者が出席し、ホームについて説明するなど理解に繋げ、将来利用者が参加できるよう基盤作りに努めています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 協力医療機関、併設他事業所と連携し認知症関係の相談等の対応を行っている。老人会の食事会参加した際は、パンフレットを使ってグループホームの説明を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 開設より継続して2ヶ月1回開催。活動やサービスの現状を報告し意見や情報交換を行い運営に役立っている。 | 会議は利用者、家族、民生委員、福祉委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催し、参加者よりホームについての様々な意見や感想、提案をもらっています。グループホームについて一般的に認知度が低いのではないかと意見を受け、説明を添付したパンフレットに改訂したり、民生委員から幼稚園への交流を提案してもらうなど、運営に活かせる会議となっています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営や介護保険に関する事で、分らない事があれば、その都度連絡を行い指導を仰いでいる。 | 介護保険の更新時や諸報告は、管理者が直接市役所へ出向き、質問や相談を行っています。また管理者が連絡協議会の役員を担っている為、何かと相談できる関係性が築けています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本となる「抑制防止マニュアル」を作成しており、新人研修時に落とし込みを行っている。又、開設から現在まで身体拘束事例はありません。エレベーターは構造上、外部からの不審者を確認できない為、使用者の制限を行っている。又、各フロアで勉強会、を行っている。 | 身体拘束についてのマニュアルを基に、各フロアで定期的に勉強会を行い、言葉の抑制を含め拘束の弊害について認識を深めています。エレベーターはロック方式になっていますが、利用者が外に出たい様子があれば職員が付き添っています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止に関する、資料を準備し新人研修時に落とし込みを行っている。いつでも回覧できるよう各フロアで保管し虐待防止の努めている。又、勉強会も行っている。 | | |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を利用されている利用者様が1名おられるので身近な制度になっている。家族様から相談があった際は、相談窓口へ繋げている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に重要事項説明書、契約書を用いてサービス、利用料、契約、解約、その他内容の説明を行って、一度家族様に持ち帰って熟読して貰っている。契約時にご不明な点、ご質問に対応し、納得した契約を行って頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 普段の会話から、利用者様の意見、要望を引き出し対応している。又、家族様の面会時、サービス計画書の説明時に意見、苦情を受けている。又、意見箱も配置している。意見・苦情があった際は、会議等で苦情内容の報告を行い、反映できるよう取り組んでいる。 | 利用者の希望はケアの場面で聞き、家族からの要望は面会や介護計画の説明時に聞いています。運営推進会議で外出についての意見が挙げたことからアンケートを取り、様々な意見を受けて個々の希望や体力に合わせて外出するよう取り組んでいます。家族会は現在ありませんが、行事への参加を呼びかけコミュニケーションを図る機会としています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議前に提案書を設け意見や提案を記入して貰ったり、職員個々に案の確認を行い、会議で話し合い反映できるよう取り組んでいる。法人で取り組む必要がある際は、長会議で議案としてあげている。 | 常勤職員の会議が月1回、フロア会議が月3回あり、会議の前にテーマを決めてレジュメを作成し意見を出しやすい仕組みを作っています。常勤会議とフロア会議は相互に課題を共有して話し合っています。管理者は個別に随時声をかけ、提案や相談を聞いたり、ターミナルケアについてのアンケートを実施し、結果から勉強会開催に繋げています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々に、業務担当、行事企画を主で遂行して貰えるよう勤務調整している。又、自己啓発出来るよう、情報の提供、勤務の調整も行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJTを中心に個々に力が不足している部分をその都度指導し改善できるよう取り組んでいる。又、各フロアで1ヶ月に1回勉強会をフロア会議に入れ込んで行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 居住系地域密着型サービス事業者部会で行なっている勉強会に参加し他のホームと意見・情報交換を行っている。 | | |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前に各事業所や主治医、家族様、本老の情報を基にニーズを把握し安心して入居できるよう職員間で情報の共有を行っている。入居後も、他老、職員と良好な関係が築けるよう日課、行事に出来るだけ参加いただき親睦を図っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用前に家族様、本老と面談を行い、現状や不安に感じている事、困った事を引き出し不安を取り除けるように今後対応の説明を行っている。その後も状況変化等がないか連絡を取り確認している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用前に各事業所や主治医、家族様、本老の情報を基に、職員間で状態・ニーズの共有把握を行い入居時に対応できるよう努めている。又、医療の対応が必要であれば、各事業所に連絡し対応をている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 炊事、洗濯、掃除など生活の場面で行う家事について、できることに参加してもらい、できない方には作業の輪に入ってもらい、雰囲気を感じて貰ったり、交流が図れるよう配慮している。各入居者間で役割が分担ができるよう支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在の生活の近況を面会時やフロア便り等で報告している他、年間行事や外出にも参加して頂き、活動に対する協力を賜っている。また、家人から情報提供を得て、支援に繋がったり、問題解決に協力を頂いたり、家族との連携を図っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚や近所付き合いがあった方に面会に来て頂いたり、今まで住んでいた地域を訪ねて、昔馴染みに挨拶に行ったり、これまでの関係が継続できるよう支援している。近隣の理髪店など入居以降に新たに馴染みの場所ができた入居者もいる。 | 利用者の友人や以前の住まいの隣人がよく遊びに来ています。訪問があった際にはお茶を出し居室でゆっくり過ごしてもらっています。また買い物や帰りに住んでいた家を見に行き、近所の人と話をしたり、行きたいと話していた場所を家族に伝え、馴染みの場への外出に繋がっています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲の良い入居者同士と一緒に家事やレクなどの作業をしてもらい、役割分担することで協力して作業できるように配慮している。また、利用者間で声掛けしてもらいなど利用者同士での会話を促して関係作りができるように支援している。 | | |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も定期的に連絡を行い利用者様、家族様の現状の把握に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の話や言葉の中から希望を汲み取るほか、家人からも話しを伺って、できるだけ本人の希望に近づけるように総合的な援助の方針を立てている。状態に変化があった場合はその都度本人や家族に意向を確認している。 | 入居時に本人、家族から嗜好や好み、暮らしの希望を聞きアセスメント用紙に記入して把握しています。入居後は会話や仕草などから思いを推し測り、会議で話し合ったり、支援経過記録に残しています。また日頃のケアで気付いた事は連絡帳に記載して共有し、思いに近づけるよう努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個人別の生活歴ノートに入居者本人や家族様から収集した情報を書き込むことで、現在の援助に反映できるよう努めている。入居時には本人や家族、他事業所から情報を収集して、リロケーションダメージを小さくできるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各入居者の日々の様子を観察し、毎日の記録と申し送りにより入居者の状態を職員間で共有できるようにすると共に、定期的なアセスメントによる評価を通して各入居者ができることを日々の活動に取り入れられるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリング表で介護計画の実践状況を毎日確認し、PTやNSの意見や定期的なカンファレンスで介護職員の意見を取り入れて介護計画の見直しを図っている。家族様にも介護計画の説明時や面会時などで意見を伺っている。 | 本人、家族の希望やアセスメント、職員からの情報を基に介護計画を作成しています。計画の中の重点項目については、毎日実施状況をチェックし、3か月に1回計画の見直しを行っています。見直しの際は、アセスメントを行い会議を開き、連絡帳や医療連携ノート等も参照し、常に状況を把握して、現状に合った計画になるよう努めています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 援助内容を支援経過記録に印刷して職員で共有できるようにすると共に、援助した際の内容や気づきを記入して職員の意見が反映できるようにしている。記録につけることで情報を共有して実践や介護計画の見直しの際に役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | P.Tによる集団リハビリ、訪問歯科の口腔衛生管理、往診、訪問看護による健康管理のサービスを利用いただいている。 | | |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | デイケアと連携し地域の方々を招いたり毎日の買い物でスーパー、コンビニを利用したり近所の飲食店を利用するなどし交流を図っている。又、正月には、地元の神社でお祓いをしてもらっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に説明、同意を得てホームの協力医療機関の津森医院を利用して頂いている。希望や必要があれば、他の医療機関へ柔軟に対応している。受診前後には、家族へ状態、結果等の報告を行っている。 | 本人、家族の納得の上で、現在は全員が建物内1階の協力医がかかりつけ医となっており、週1回往診があります。専門科への通院が必要な場合は、家族に説明したり紹介を行っています。通院は家族に依頼していますが、必ず職員が付き添い連携を取るようになっています。他に訪問看護、訪問歯科も週1回受けています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週2回の訪問看護による健康管理を行っている。気になる症状や対応の相談を記録し訪問時確認してもらい助言してもらって記録している。診察が必要の際は訪問看護から、主治医へ状態報告をしてくれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、主治医の紹介状、介護サマリー等で情報を医療機関へ提供している。退院前には、家族様、医療機関からの得た情報と面会へ出向いた際に得た情報を基にニーズを把握しホームでの生活にスムーズに移行出来るように対応をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に提供できる医療の範囲とターミナルケアの説明を行い重度化、終末期の対応の確認を行っている。また、状態の低下時と終末期にも再度意向の確認を行っている。又、日々の状態を定期的に面会、電話連絡時に報告している。 | 入居時に終末期ケアや、急変時の対応について家族に意向を聞いています。重度化が予測され状態に変化があった場合にその都度、意向の確認を行っています。看取りの支援を行う場合には、医師から家族に説明があり、管理者も交えて話し合い方針を決めています。職員へはターミナルケアについてのアンケートを実施し、勉強会を開いて方針や情報を共有しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルに沿って対応が行えるよう普段から閲覧できるようにしている。又事故後には、カンファレンスを行い対応の見直しその後の対応をおこなっている。普段からひやりハットを記録し1ヶ月毎にまとめスタッフ間で報告を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 自衛消防隊を配置し年2回避難、消防訓練を実践している。 | 建物全体で行う年2回の訓練の内、1回は夜間想定でホーム独自で行っています。昼想定訓練では消防署が立ち会い、消火器の使用法の講習を受けています。訓練については、運営推進会議で予定と報告を行っています。 | 運営推進会議では報告に留まっているようですが、今後、参加者に訓練の見学を依頼したり、近隣へ訓練日を知らせるなど試み、地域への協力体制作りにつなげていかれてはいいかがでしょうか。 |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ホーム内の個人情報保護規定に沿って職員に周知徹底を行っている。又、普段から個々の行動障害、精神症状に合わせた言葉掛けを心がけ対応を行っている。 | ホーム内で認知症についての研修や言葉かけについての勉強会を行い、日頃から尊厳を持って利用者に接する事を意識付けています。よそよそしくならず、親しみを込めて接する中でも節度を保ち、不適切な言動があった場合は、管理者が声をかけたり、会議で対応を話し合っています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定が難しい利用者様には選択肢を用意して希望を聞き出せるよう働きかけている。前提として職員側で判断し、決めてしまうのではなく、まずは入居者の意見を訊くようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のペースで日々を過ごしてもらっている。居室に引きこもりがちな方や身体的行動障害がある方でも、作業レクや家事、外出などの声を掛け、興味の持てるものに、個々に応じ方法で参加していただき、入居者間での交流も図っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理容を利用しているが、希望のある方には個別に望む店に行けるよう対応している。その他、更衣の際に着る服を一緒に選んだり、化粧をしたり個人の選択を尊重している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々ができることを活かして、分担し共に調理を行っている。出来ない方にも雰囲気を感じてもらえるよう食卓で行っている。参加されない方にも、いつでも参加いただけるよう言葉掛けを行い、普段から皆で作ることを意識し準備している。 | 献立は各フロアの担当者が利用者と相談してそれぞれで立てています。現在は利用者の状況で、週に数回外注の弁当を取っていますが、状態により減らしていくことも考えています。外食行事を毎月取り入れ、レストランや食堂、喫茶店等へ出掛けています。またオードブルを取ったり、バーベキューやたこ焼きパーティ、5階のホールで食事をしながらのレクリエーションを楽しみ、気分転換を図っています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の水分・食事摂取に応じた量、形態、配膳時間の調整、主食の変更等を行い配膳している。1日の摂取量が少ない方には、栄養剤を摂取していただいている。また、栄養バランスを考え、夕食は外部の配食サービスを利用している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自立されている方には言葉掛けでケアを促しており、介助が必要な方には毎食後の口腔ケアを行っている。その他、週に1回歯科より口腔衛生指導を受け、口腔内の状態をみてもらっている。 | | |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 記録を基に、排泄リズムの把握に努め支援している。尿意・便意が曖昧な方については2～3時間毎に言葉掛けし、誘導を行っている。拒否がある方には、時間を置き再度促している。布パンツへの変更は個々の力に合わせて柔軟に行っている。 | 日中は全員トイレ誘導を行い、オムツの方はおらず、布や紙パンツ、パットで対応しています。タイミング良く誘導することで紙パンツから布の下着に変更になり、快適に過ごせるようになった方もいます。利用者に合わせてパットの厚さを調整したり、家族と相談しながら自立へ向かえるよう支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝体操を行っているほか、水分摂取が自己管理出来ない方については別に水分を用意し、一日の水分摂取量を明確にし必要な分量が摂れるようにしている。また、主治医と連携し、必要に応じて服薬調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人のペースを尊重した入浴をころがけている他、拒否がある方に対しては言葉掛け・職員を変えて、その都度、工夫をしている。また敏感肌の利用者には弱酸性の洗剤を使用、保湿剤を使用し痒みの軽減に努めている。 | 入浴準備は毎日行い、午後から夕方までの間で少なくとも週2～3回、入ってもらよう支援しています。状態により、二人介助や随時足浴やシャワー浴を行い対応しています。温度差が出ないよう脱衣所を温めたり、拒否傾向の方には声かけの工夫をして心地よく入れるよう支援しています。また季節により、柚子湯やしょうぶ湯も取り入れ楽しんでもらっています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間は特に設けておらず、個々のタイミングで就寝されており、眠れないようであれば共同スペースで過ごして頂き、状況によって柔軟に対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師の指示の下に服薬管理を行い、必要な場合はすぐに常備薬より服薬ができるように準備している他、処方箋を個人別にファイルに綴じて目的、副作用が確認できるようにしている。服薬拒否がある方は形態を変え支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事を一緒に行い、入居者が得意なことや出来ることが役割獲得につながるよう援助している。手芸等の作品作りに参加して頂き、作業の成果を通してやりがいを感じてもらえるよう努め、希望の創作活動にも積極的に支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | ほぼ毎日、日用品や食材の買い物に入居者と出かけるほか、グループ外出や全体外出などで季節に応じた外出を行い、外出の希望をされない入居者にもその機会を提供している。また、買い物、外出企画以外にも普段から個別でホーム周辺の散歩に出かけていただいている。 | 車椅子の方も含め、近所に散歩や買い物に出かけています。月2回程度遠出の外出があり、花見や初詣、奈良公園、大坂城、京都水族館等に出掛けています。遠足は家族にも声かけし、徐々に参加が多くなってきています。外出についてのアンケートを参照しながら、個々の状態や希望に合わせた個別外出も取り入れています。 | |

グループホーム フォレスト(3F)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が可能な方には本人が安心できる程度の額を家族様了承のもと管理していただいている。また、購買欲のある方に関しては本人管理の金銭から支払いをしていただくが、必要以上に購入されないよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人より希望があった際は、電話での連絡が取れるようしている他、近隣からの面会も来ていただき今までの人間関係を継続出来るよう援助している。年賀状を書ける方には書いて頂き送付している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間に入居者が分かるような入居者一覧の写真や外出した際の写真を掲示したり、季節・イベントに合わせた飾りつけや花を生けたりして季節が分かるように支援している。トイレには大きく入居者が見える位置に張り紙をして、見当識の援助を行っている。 | エレベーターに暖簾を付けたり、入り口にベンチやソファを置く事で、落ち着いた雰囲気が出るよう工夫されています。廊下やリビングに行事の写真や季節の花、共同作品の貼り絵、手作りカレンダーが飾られています。時間帯によってBGMを流したり、採光の調節、エアコンで温度調整を行い、快適に過ごせるよう配慮しています。掃除は業者も入って徹底され、清潔に保たれています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | エレベーターホールへの椅子の配置や食堂のテーブル横にソファセットを設置し、集団の中でも一人で休める場所を提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 備え付けの収納の他に、個々でテレビやラジオ持ってこられて使用していただいている。居室内に収まる範囲であれば、特に制限はなく使い慣れたものを持参いただける。 | 全居室に洗面台と戸棚が設置されています。寝台や家具等、使い慣れた馴染みのあるものを何でも持ってきてもらうよう家族に伝えています。入り口に利用者の写真や画家に書いてもらった似顔絵を掲げたり、家族が持ってきたタンスを置いたり、ぬいぐるみや家族の写真等が飾られ、それぞれ個性的な居室になっています。希望によりマットと布団を敷いて休むことも可能です。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室が分かりにくい方に対しては居室前とトイレ扉に看板や写真を掲示し、特定ができるよう工夫している。又随時声掛けで誘導行っています。 | | |